

01. サーキュラーエコノミーとこれからの幼児教育

テクノロジーが発展する一方で自然環境の問題にも関心を持たなければならぬ現代の社会の幼児教育として、モノを作る、消費することに対しての感性を育て、自然環境のコトを身近なモノとして感じることができる【サーキュラーエコノミー × 幼児教育】のこども園を提案する。



限りある天然資源の効率的な使用や環境問題、今まで無価値だったところに価値を生み、物を捨てるのではなく、どうするか考えさせるような学びを3歳児頃から徐々に園児の活動として取り入れることで、世界を大切にする人間性を育む。

幼少期の体験

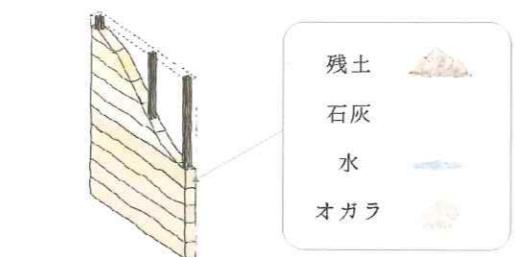
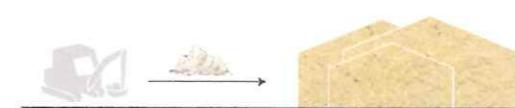


02. 土を使いこなす学び舎 - 建設残土を利用した学びと校舎 -

【建設残土を利用したこども園】

開発に伴って発生する建設残土を【サーキュラーエコノミー × 幼児教育】に取り入れ、自然環境に優しい校舎で、園児が安全に遊び・学ぶ過程の中で自然と触れ合うことができる資源として利用する。

土を使った校舎



壁を残土を利用して作ることで環境負荷を減らし、ハウスダストなどが発生しない体に優しい空間を作り出す。また、土壁の経年の変化を感じることで、モノを長く使うことを子供たちは身を持って学んでいく。

土による知育

・各園児の遊びのプログラム

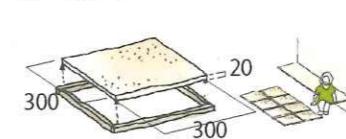
- 0歳 食事、睡眠
- 1歳 +体を動かす、指先遊び
- 2歳 +絵描き
- 3歳 +制作（粘土遊び）
- 4歳 +絵本読み聞かせ
- 5歳 +集団遊び



土は子どもたちにとって簡易的で自由度の高い遊びの材料となる。子どもは土を変化させたり、それに色を加え、モノを作り上げて遊ぶ中で想像力、創造力、物事への関心を養っていく。

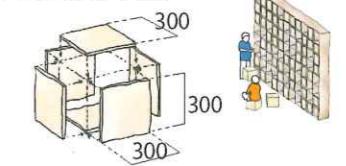
【こども園を支える土のツール】

土パネル



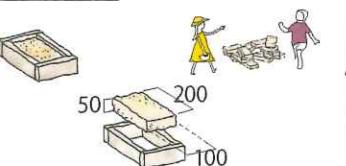
型に土を流し固めて床材や土ボックスの材料として土パネルを使用する。

土ボックス



作成した土パネル6枚で椅子の変わりになるボックスを作成する。ボックス教室の壁に収納できる。

レンガ



レンガは園児の遊び道具として使われる。

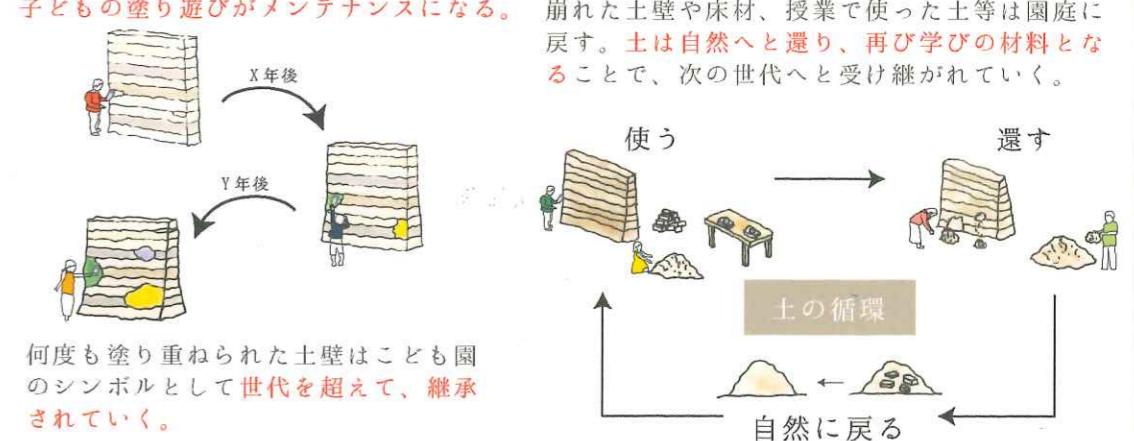
【土の継承と循環 - 世代間で受け継ぐ -】

土壁のメンテナンスと継承

子どもの塗り遊びがメンテナンスになる。

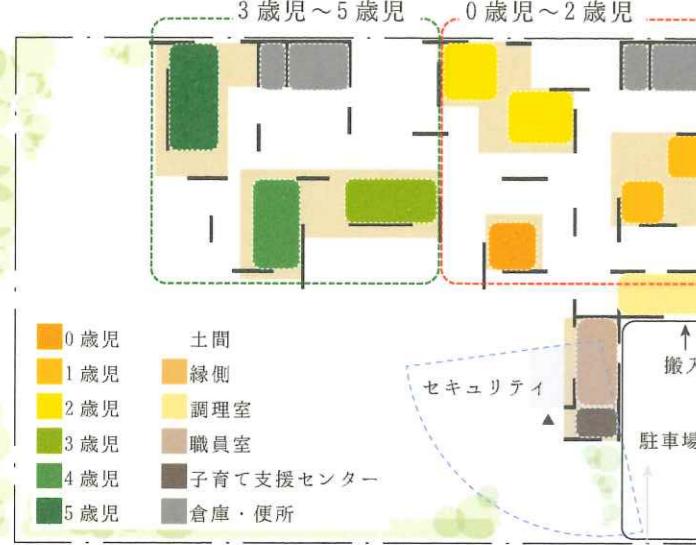
崩れた土壁や床材、授業で使った土等は園庭に戻す。土は自然へと還り、再び学びの材料となることで、次の世代へと受け継がれていく。

土の循環



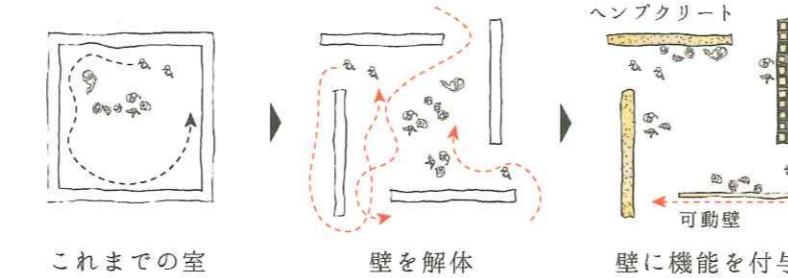
03. 配置計画

大きな配置計画としては、道路側に職員室、調理室を設けてセキュリティと搬入経路を確保し、教室は北側に0歳児～2歳児と3歳児～5歳児に分けられる配置とした。

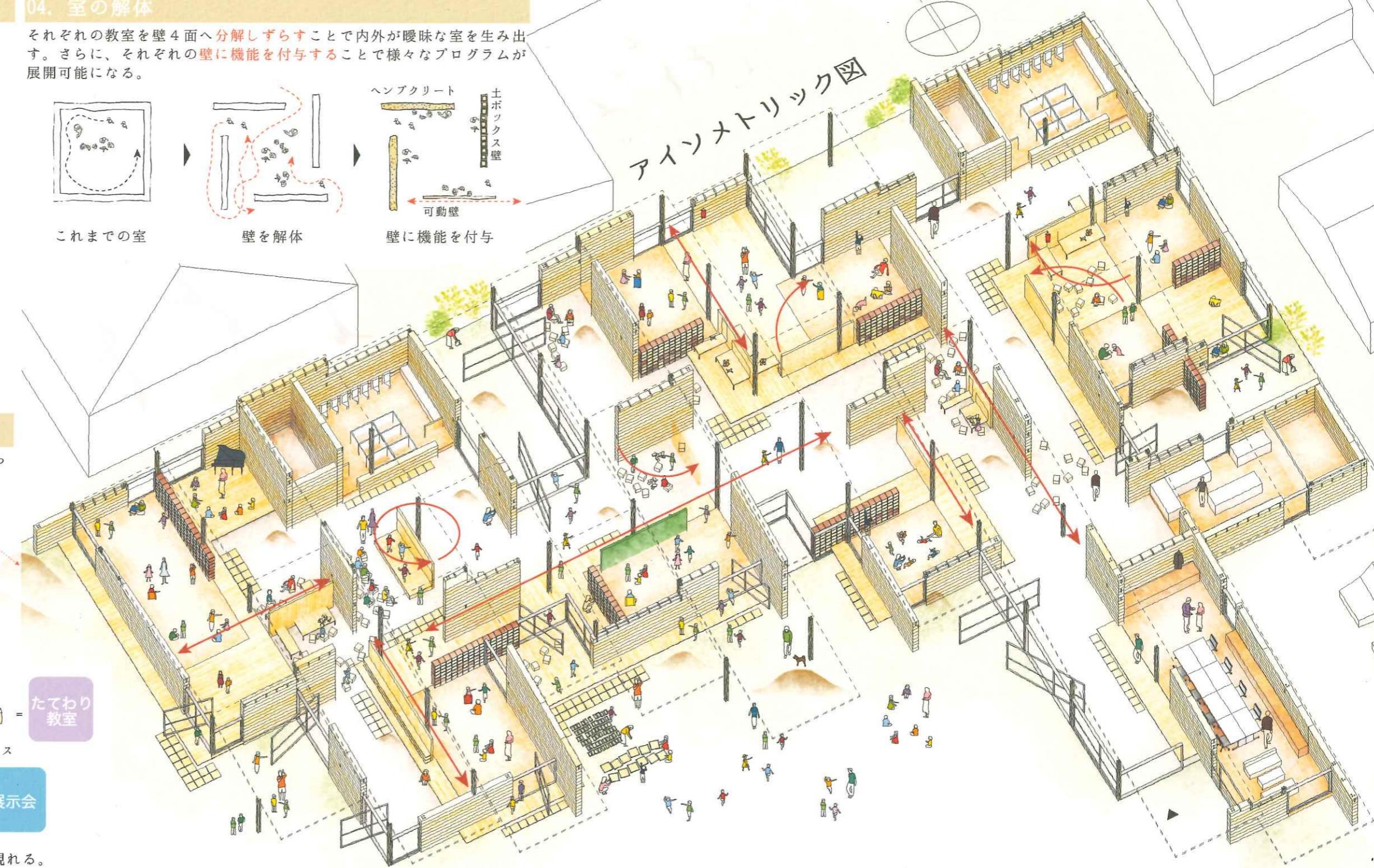


04. 室の解体

それぞれの教室を壁4面へ分解しづらすことで内外が曖昧な室を生み出す。さらに、それぞの壁に機能を付与することで様々なプログラムが展開可能になる。

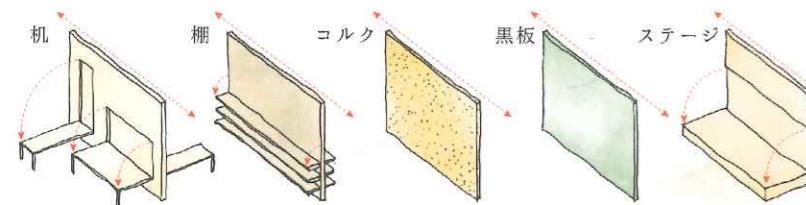


アソーメトリック図
Asometric Drawing

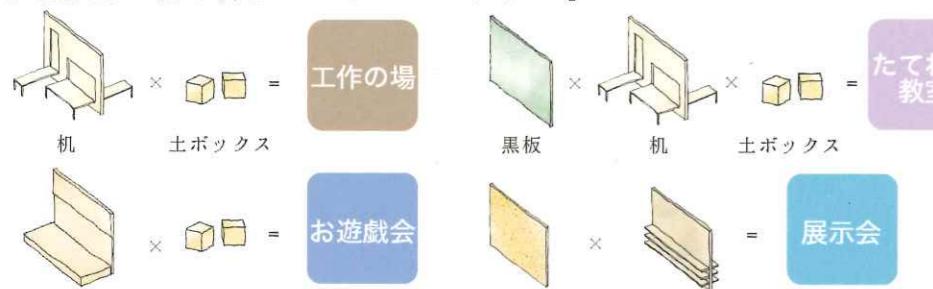


05. 可動壁による学びの誘発

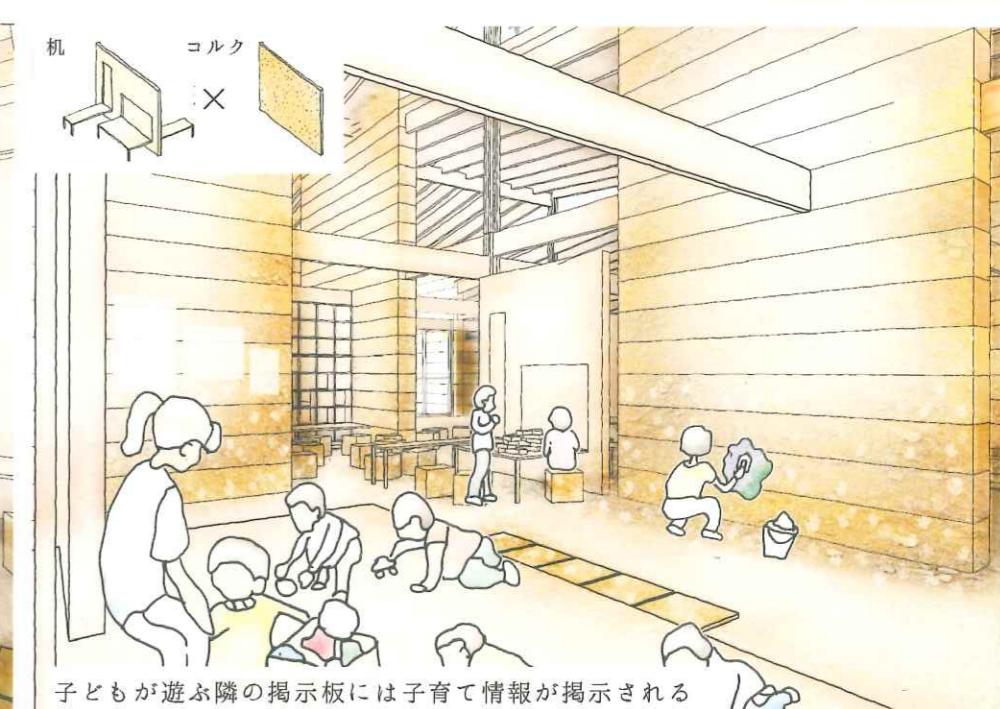
可動壁に様々な機能を持たせ、回転・水平移動させることで園児たち自ら空間を変容させながら、様々な学びを獲得する。



【可動壁の組み合わせによるプログラム】



可動壁や土ボックスの組み合わせによって様々なプログラムが立ち現れる。



絵本が並ぶ本棚からみんなのお気に入りを読み聞かせる

工作した道具を使って劇を練習する

子どもが遊ぶ隣の掲示板には子育て情報が掲示される